

内外教育

第6830号

ラウンジ 新型コロナ危機後の教育

○：重い病気になつた時は、自分にとつて何が重要なことなかに思いを巡らす。そのような時こそ、本当に大切なことに気がつく。しかし、病気が治り死の恐怖が去ると、危機的状況の時に考えたことは忘れ、元の便利や功利を求める生活に戻つてしまふ。

○：今、新型コロナウイルスの世界的流行で、私たちの日常生活は一変し、重い病気にかかつたような状態にある。そのような時こそ、何が大切なか、何が重要なかを考えたい。

○：新型コロナの感染拡大は、社会の諸分野に影響を及ぼしている。教育の世界への影響も大きい。とりわけ、長期にわたり学校が休校になつたことは、学校中心の生活を送つていた子どもたちの生活を一変させた。その影響は計り知れない。休校になり、授業、遊び時間、部活動、交友関係も無くなり、子どもたちの学習や楽しみが奪われた。そして、遊びの社会的格差が拡大している。これまで学校が担つてきた教育機能の重要性が、平等性も含めて改めて認識される。コロナ後は、この間に滞つた教育機能の補修、回復や格差のは正が、まず早急になされなければならない。

○：一方で、自明であつた学校教育の意義も問われている。効率優先の一斉授業、生きる

力にならない知識、教師のクラスメートへの叱責を聞く時間、退屈な学校行事、無意味な校則など、無くなつてみるとスッキリすることが多い。これまでの学校教育の在り方の見直しが必要である。

○：休校中の家庭での自由な学習、親子関係の親密化、ウェブ学習、地域での遊びの回復など、これまでの学校教育とは違つた自由な学習や生活に、本来の興味や活動に目覚めた子どもたちも多いことであろう。不登校やホームスクーリングも見直されてよい。

○：黒板とチョークを使っての学校での授業に替わり、家庭での遠隔学習を経験した子どもも多い。デジタルネイティブの今の子どもにとって、デジタルで学ぶことの楽しさは増えている。コロナ危機後の教育では、デジタル学習が家庭でも学校でも盛んになることは必然である。しかし、教育のデジタル化には多くの課題がある。子どもの集中力や深い学びには、ウェブ学習より伝統的な教育（紙と黒板）が適合的という報告もある（デジタル先進県の全国学力・学習状況調査の得点は高くなないことなど）。

○：コロナ危機は、経済や政治の分野で大きな変化をもたらし、教育にも跳ね返る。経済的な不況による教育費の削減、危機管理を名目にした超管理社会の到来など。これからは、教育力の維持、教育的格差の是正、民主主義の維持などがなされなければならない。（Q）

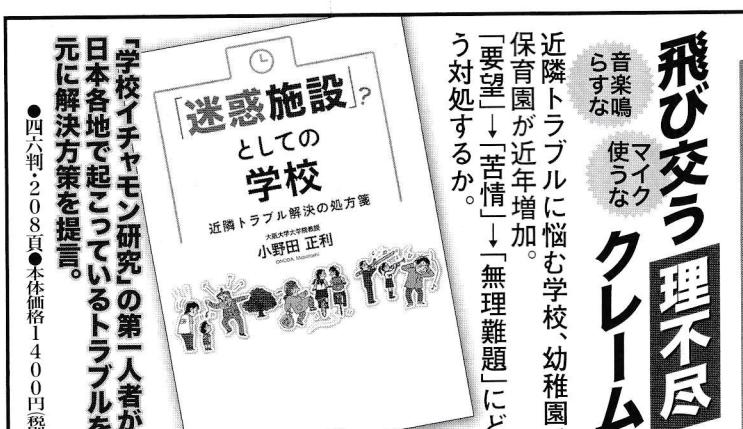
「迷惑施設」としての学校

近隣トラブル解決の処方箋

小野田正利[著]

TL 03-5565-2155

<https://bookpub.jiji.com/>



「学校イチャモン研究」の第一人者が
日本各地で起つてきているトラブルを
元に解決方策を提言。

●四六判・208頁・本体価格1,400円
税別



時事通信社

時事通信出版局 営業企画部

東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル